

## 価値創造ストーリー

### 価値創造の源泉～セイコーならではのこだわりとは～

#### 揺るぎない信頼が、国際的ブランドを築く

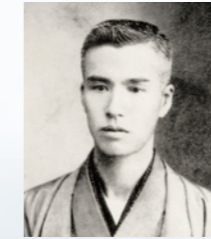
セイコーグループは、創業以来、常に社会に役立ち信頼していただける存在であり続けるため、挑戦を続けてきました。その結果として世界でも唯一無二のセイコーブランドを築きました。



#### 1881

##### 服部金太郎が服部時計店を創業

輸入時計の販売と修理を行う服部時計店を創業しました。誠実に取引を重ね、どんな困難な状況でも約束を守り続けたことで、商館や販売店からの信頼を獲得し、事業は大きく発展しました。



#### 1894

##### 初代時計塔を銀座四丁目に設置

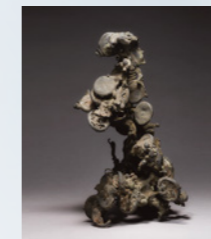
時計塔は、正確な時刻を知らせることで人々の暮らしの中に「時間」という概念を浸透させ、銀座のシンボルとなりました。現在の時計塔は1932年に完成した2代目で、銀座の街とともに時を刻んでいます。



#### 1923

##### 関東大震災後の誠意ある対応が築いた社会的信用

関東大震災で工場や店舗が全焼し、修理のために預かっていた約1,500個の時計も失われました。金太郎は新聞広告を通じて顧客に呼びかけ、申し出た人々に同程度の新品を提供。その誠意ある対応で確固たる信用を得ました。



大震災で焼けた時計

#### 1953

##### 日本初のテレビCM放映「ブランドを大事にする」の精神で

日本初の民放テレビCMとして、セイコーの時報CMが放映されました。金太郎は当時から「ブランディング」の重要性を強く意識しており、その精神は現在も公式計時などの活動に受け継がれています。



## 信頼の積み重ねで築き上げた、世界で唯一無二のセイコーブランド

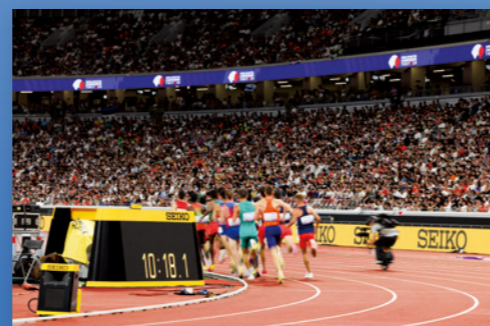
### 正確な計時・計測を提供し、感動の瞬間を刻む

スポーツの大会は、己の限界と記録へのあくなき挑戦を続けるアスリートにとって、紛れもない至高の舞台です。当社グループは数多くのスポーツ大会において公式計時を担当しており、計時・計測の正確性や精密さを追求し、信頼を積み重ねてきました。

1964年の東京オリンピックでは、当時、当社グループでスポーツ計時の経験がない中、機器の開発を行い、大会の成功を支えました。「国産品のオリンピック」「科学のオリンピック」と言われた大舞台での活躍により、セイコーの技術・ブランドが世界で認知され、以降のオリンピック5大会で公式計時を担当しています。

また、1987年以降、世界陸上においても公式計時を継続して担当しており、2025年9月に開催された東京大会では、最新機材「ビデオトラックトラッキングシステム(VTT: Video Track Tracking system)」を導入し、陸上競技のエンターテインメント性向上に貢献しています。

スポーツ計時は、セイコーブランドを世界に発信する重要な機会でもあります。経験豊富なタイミングチームと最先端の計測機器を駆使し、より正確な計時・計測を提供することで、世界中の人々に笑顔と感動の瞬間をお届けしています。



写真：アフロスポーツ



### セイコーのブランド力を支える「現代の名工」たち

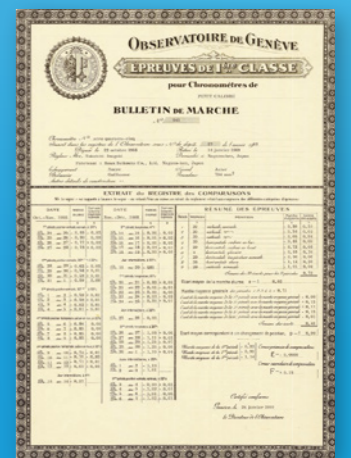
当社グループでは、“ものづくり”は“人づくり”と考え、優秀な技術・技能者の育成に力を注いできました。その中核を担ったのが「現代の名工\*1」たちです。

セイコーは、国内外の精度コンクールに積極的に挑戦し、技術・技能を磨き、人材を育ててきました。挑戦を続けた結果、1968年にセイコーの時計の精度と技術力が評価され、ジュネーブ天文台コンクールで機械式時計の上位を独占しました。その後も、ジュネーブ時計グランプリなどの世界的に権威のあるコンクールで数々の賞を受賞しました。これらの世界での評価には「現代の名工」たちが大きく貢献しており、その挑戦がブランドの信頼を築く大きな礎となっています。

現在、当社グループには「現代の名工」が7名\*2在籍しており、外部から高い評価をいただいています。高度な技術を有する人材は、当社グループのブランドの維持に大きく貢献しており、さらなるブランド力の向上のために技能の継承、技術者の育成にも力を入れています。これからも高く評価されるブランドであり続けるために、鍛錬を積み、世界中からの信頼を獲得していきます。

\*1 現代の名工：卓越した技能を持ち、その道で第一人者と目されている技能者を厚生労働大臣が毎年1回表彰する制度

\*2 2025年3月末時点



ジュネーブ天文台コンクール成績表

# Technology

## 価値創造の源泉～セイコーならではのこだわりとは～

### 1881年以來培った「匠・小・省」の技術力

セイコーグループは、1881年の創業以來、世界初のクォーツ腕時計をはじめ、様々な先進的・革新的な製品を世に送り出してきました。腕時計の小型化、高精度化、長持続化を追求する中で培われてきたのは、精緻な技とノウハウで新たな価値を創る「匠」の技術、精密加工や高密度実装技術で小型化を実現する「小」の技術、材料やエネルギーなどの様々な資源を効率的に活用する「省」の技術です。

# 匠

伝統の技と先端の知で  
新たな価値を生み出す

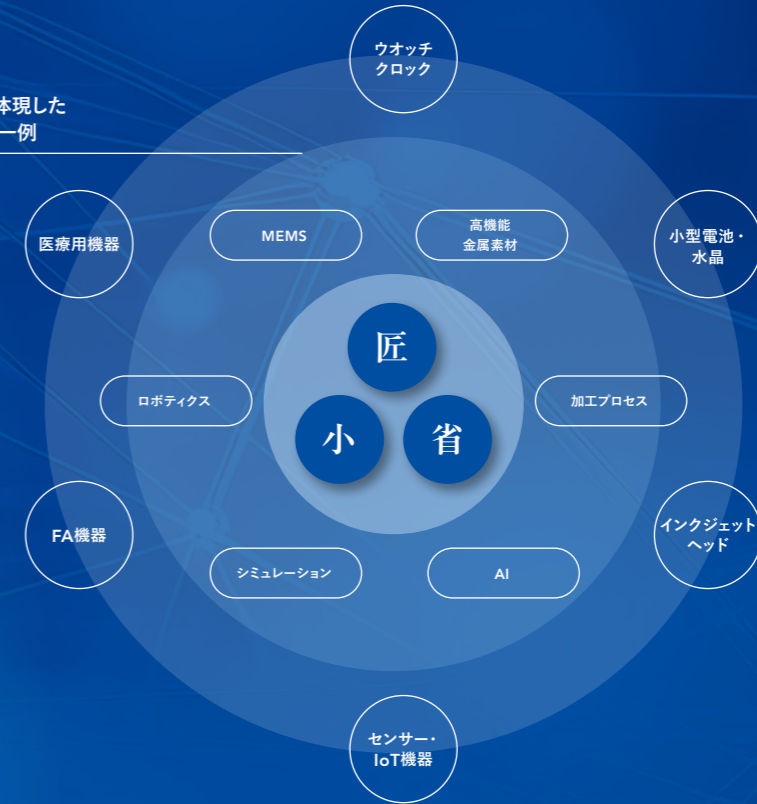
# 小

精密加工・組立で  
小型化を追求

# 省

省エネ、省資源、省人化を  
追求する

「匠・小・省」を体現した  
技術力と製品の一部



## 時計製造で培われた「匠・小・省」の精神によるイノベーション

### 時計とともに進化する卓越した技術

当社グループは、時計製造の分野で世界をリードする技術力を誇ります。1969年に世界初のクォーツウォッチ「セイコー クォーツ アストロン」を発表し、時計業界に革命をもたらして以降、世界初のアナログクォーツ クロノグラフ、クォーツ式と機械式を融合させたスプリングドライブなど、常に技術革新を追求してきました。2012年には世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロン」を発表し、地球上のどこにいても正確な時刻を表示することが可能となりました。そして、2022年に発表した「グランドセイコー Kodo(鼓動)」は、機械式腕時計の技術力を極限まで追求した傑作です。この腕時計は、世界で初めて「コンスタントフォース」と「トゥールビヨン」という二つの複雑機構を同軸に一体化して組み合わせることで、新次元の安定した高精度を実現し、機械式時計の美しさと精度を追求しました。当社グループの腕時計は、精度と信頼性を兼ね備え、世界中で高く評価されています。



セイコー クォーツ アストロン

セイコー アストロン GPSソーラー

グランドセイコー Kodo(鼓動)

### 未来を支える卓越した技術力

当社グループは、クォーツウォッチの誕生以降、電子部品の自社開発、自社生産の体制をいち早く確立し、腕時計の多様化、量産化に対応していく中で、小型、低消費電力などの技術を磨き、様々な製品を生み出してきました。それらは、現代社会に不可欠なスマートフォンやデジタル家電、自動車、IoT機器などで幅広く活用され、社会と産業を支えています。例えば、小型電池は持続血糖測定(CGM)のセンサー向けのバッテリーや防犯カメラ、ドライブレコーダーなどのデジタル機器のメモリーや時計機能のバックアップ電源として、水晶振動子および水晶発振器用ICは、デジタル機器に内蔵された電子部品が同期を取るための基準信号を生成する部品として重要な役割を發揮しています。このように、当社グループは、時計製造で培った「匠・小・省」の技術を活かし、車載、医療、産業をはじめとする様々な領域において、多様なニーズに応える製品を提供し、持続可能な社会の実現に貢献しています。



水晶発振器用IC

水晶振動子

高機能金属

小型電池

# Solutions

## 価値創造の源泉～セイコーならではのこだわりとは～

セイコーグループは常にお客さま本位の姿勢を大切にし、お客さま視点に立った質の高い商品・サービスを提供し続けます。



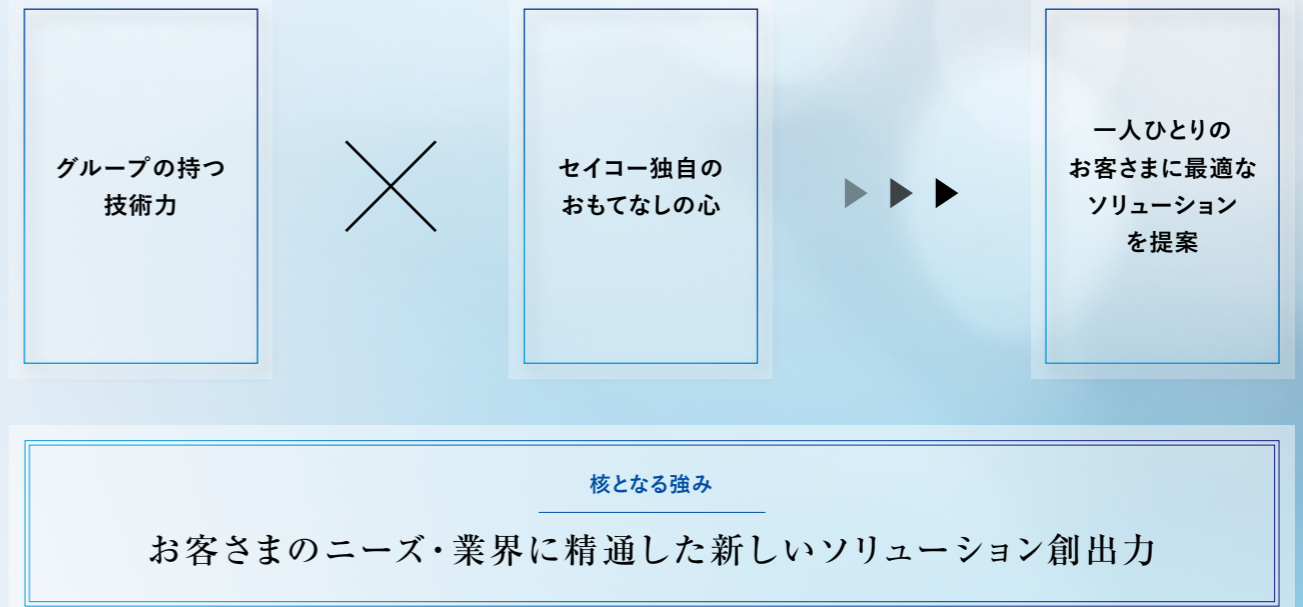
### 培ってきたおもてなしの精神がつなぐ新たなソリューション

1894年、創業者・服部金太郎が銀座に設置した時計塔は、人々が正確な時間を知ることが社会課題の解決につながるという想いの象徴であり、当社グループのホスピタリティの原点です。時計塔を拠点とする銀座・和光では、この精神を受け継ぎ、常にお客さまを温かくお迎えしています。

今ではこの精神に、当社グループが長年培ってきた技術力を掛け合わせることで、セイコー独自の提案力を発揮しています。この提案力は、銀座・和光での事業に限らず、他の事業にも横展開し、グループ全体の強みに成長しました。

おもてなしの心を軸に、多様化するニーズに応える新しいソリューションを創造し続けます。

### セイコーのソリューション提案力



## 徹底したお客さま視点での提案力

### オンラインとオフラインの融合で“接遇”接客を実現

銀座に店舗を置く(株)和光では、単なる接客ではなく、傾聴により顧客の潜在的なニーズを把握し、顧客に寄り添ったサービスや体験を提供する、“接遇”接客の実現を目指しています。

実際にお客さまと接する現場の販売員がより良い“接遇”ができるよう、セイコーソリューションズ(株)が提供するOMOソリューション「SETSUGU」を導入することで、オンラインとオフラインの顧客データを統合し、現場でのデータ活用を実現しました。2024年には「SETSUGU」の新機能として会員証アプリサービスの提供が始まり、和光が目指す“接遇”に必要なデータ活用の高度化によるCX向上を実現しました。

時代のニーズに沿ったおもてなしの精神と長年培ってきた技術力を掛け合わせ、これからも新しいソリューションを創造し続けます。



### 正確な「時」で社会生活を豊かに

高度なシステムで制御された社会はあらゆるものが正確な時刻でつながっており、わずかな時間のズレが交通機関の混乱や通信障害を引き起こします。そのため、情報を扱う電子機器の時計を正確に合わせる時刻同期は、現代社会に不可欠な技術だと言えます。

セイコーが提供する高精度時刻同期は、東京証券取引所でも導入されています。株式取引が始まる朝9時には、わずか1秒間に数万件の注文が殺到します。当社の1,000万分の1秒レベルの時刻同期技術は、注文の順序どおりの取引の実現に寄与することで、公平な取引の機会を投資家に提供しています。

この技術は、放送、通信、鉄道、金融、電力、IoTなどの分野においても、それぞれのニーズに寄り添い、超高精度の時刻同期の要求に応えています。



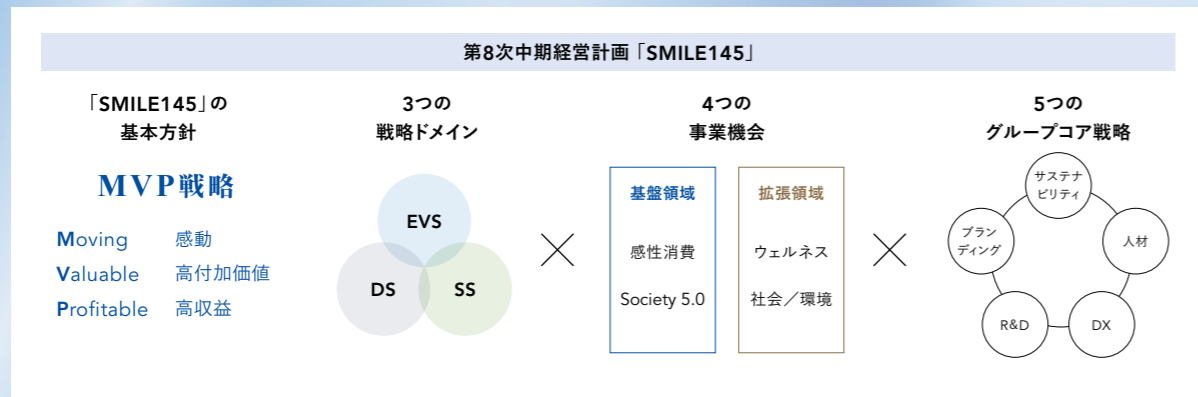
## 価値創造モデル ～独自の価値創造の積み重ねによりセイコーの企業価値を拡大～

セイコーグループは、セイコーブランドを中心とした経営資源を基盤とし、独自の3つの価値創造の源泉を活用して、資源の強化・拡大を図ることで、持続的な成長をしていきます。現在、中期経営ビジョンとして「ソリューションカンパニー」になるという目標達成に向けて第8次中期経営計画「SMILE145」を推進しており、企業価値の向上を加速させることで、グループパーパスの実現を目指します。



「SMILE145」によって  
企業価値の拡大を加速

### 目標到達の確度を高めるドライバー P.36



### グループ10年ビジョン実現に向けた価値創造の考え方



<b>DNA</b>	<b>企業理念</b> 社会に信頼される会社であること	<b>グループスローガン</b> 時代とハートを動かすSEIKO	<b>創業者の言葉</b> 常に時代の一步先を行く
------------	--------------------------------	-------------------------------------	------------------------------

**環境認識** ● 多様性の受容 ● コミュニケーションの変化 ● デジタル化の進展 ● 少子高齢化 ● 気候変動

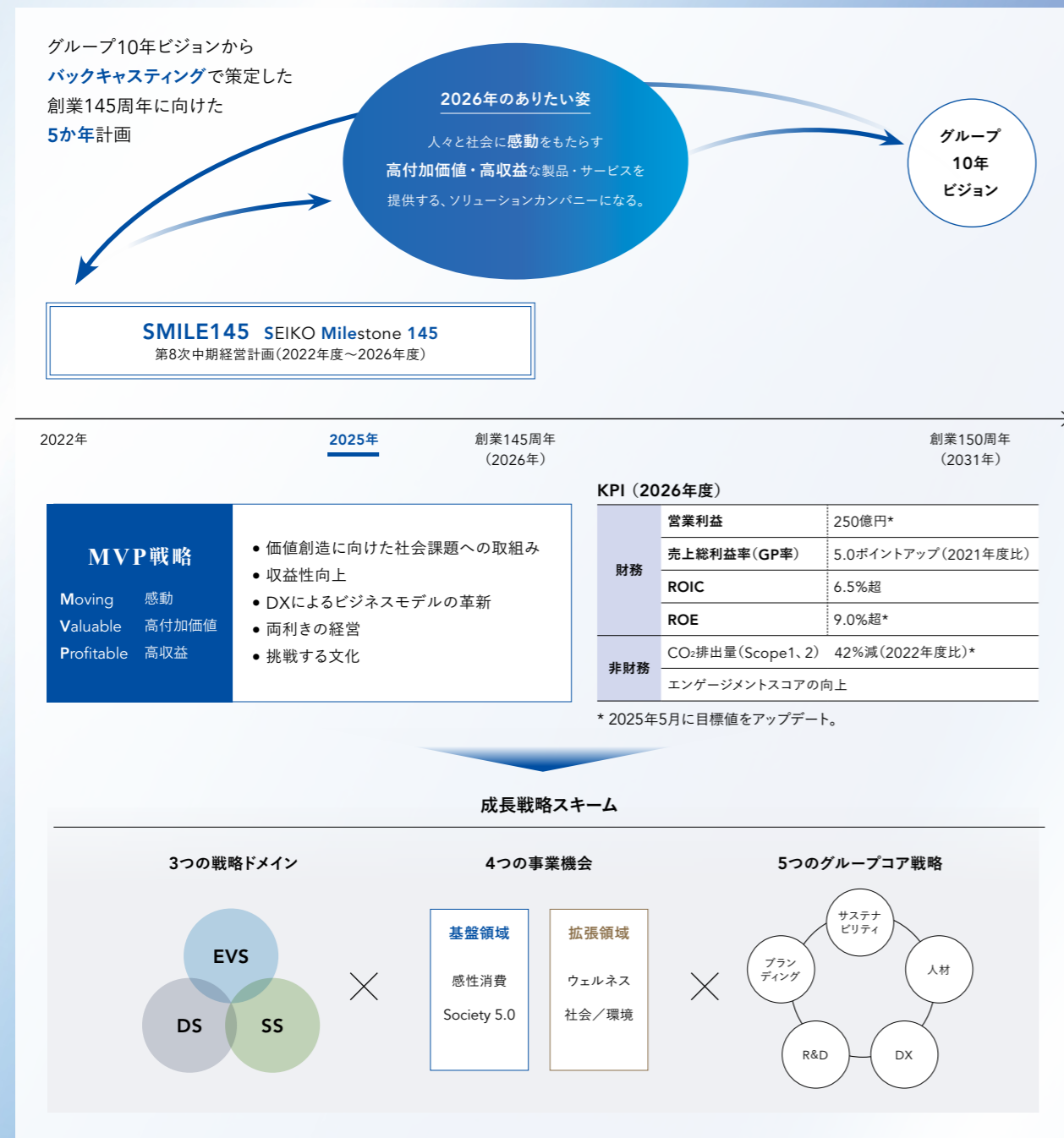
## 第8次中期経営計画

# 「SMILE145」

～計画概要と進捗、2026年に向けて～

### 「SMILE145」の全体像

セイコーグループは、VUCA(予測困難な時代)における非連続的な変化が多発する中、環境変化を捉えて「ソリューションカンパニー」として社会課題の解決に貢献することを目指し、第8次中期経営計画「SMILE145」を推進しています。その基本方針であるMVP戦略を展開し、高付加価値・高収益な製品・サービスを提供するとともに、社会課題の解決と収益性の向上を目指します。



### 「SMILE145」後期3年間の事業に関する方針と2025年度の事業別重要課題

前期2年間の進捗と環境変化を的確に捉え、後期3年間では以下の方針で事業を推進しています。また、2025年度は以下の事業別重要課題に取り組んでいます。

#### 後期3年間の方針

- 「ウォッチ事業」と「システムソリューション事業」を、グループ成長の中核と捉え、さらなる成長に向けて投資の強化を図る  
「デバイスソリューション事業」は、各製品の成長性を見極め、バランスの取れた投資を実施する
- セイコーフューチャークリエーション(株)を軸として、グループ全体のR&D戦略の強化と新しい技術の開発を推進し、これらの活動を通して、グループ横断で新たな事業領域の創出に取り組む

#### 2025年度 事業別重要課題

エモーショナルバリューソリューション(EVS)ドメイン	<b>ウォッチ事業</b> グランドセイコーを中心とした高級品ビジネスの海外における拡大加速 ・直販流通の拡充および高級小売店との連携強化 ・新規顧客獲得に向けたデジタル・店頭での訴求強化 <b>グローバル製造体制の見直し</b> ・製造工程の複線化およびグループ製造拠点の有効活用による効率化と原価低減 <b>和光事業</b> ロイヤルカスタマー化とWAKOオリジナル商品の拡大 ※ 2025年度より、タイムクリエーション事業については、クロック事業はウォッチ事業へ、ファシリティソリューション事業はSSドメインへそれぞれ移管
デバイスソリューション(DS)ドメイン	<b>医療用酸化銀電池の売上拡大</b> ・市場の需要増加を確実に捉えた製品を供給しつつ、用途と顧客の拡大を目指す <b>自動車部品をはじめとする精密デバイス事業の再成長</b> ・大手客先との関係構築による新規案件獲得に向けた積極展開
システムソリューション(SS)ドメイン	<b>DXプラットフォームの規模拡大</b> ・高いストックビジネス比率による高利益率をキープしながら、お客さまの深耕と多角化による業容の拡大を加速(金融向けのデジタルトラスト、性能管理、セキュリティ等) <b>ハードウェア&amp;ソフトウェアソリューションの強化</b> ・「製品売切り型」から「ストックビジネス」のビジネスモデルへの転換を推進することで、IoTビジネスの成長と利益率改善の両立を目指す ファシリティソリューション事業への取組み(EVSからSSへ移管)

### 「SMILE145」最終年度財務数値目標のアップデート

2025年度業績予想の営業利益225億円を踏まえ、最終年度(2026年度)の営業利益目標を250億円に上方修正しました。また、営業利益目標の上方修正に連動し、ROE目標も9.0%超とし、中長期的には10%超を視野にROEの改善に取り組んでいきます。

	第7次中期経営計画	第8次中期経営計画「SMILE145」				
	最終年度2021年度実績	3年目2024年度実績	4年目2025年度業績予想*	最終年度2026年度		
				当初(2022/5)	前回修正(2024/5)	今回修正(2025/5)
営業利益(億円)	87	212	225	180~200	200	250
売上総利益率(%)	41.8%	45.0%	46.0%	46.8%	46.8%	46.8%
ROIC(%)	3.5%	6.0%	-	6.5%超	6.5%超	6.5%超
ROE(%)	5.5%	8.7%	-	-	8.0%超	9.0%超

\* 2025年度業績予想は2025年5月13日発表値